「生きる力（思い出づくり）」体験学習プランで、羽田空港 ANA 機体整備場を見学

子どもたちが夢を持てるプラン

みやぎ生協が取り組む被災地の子どもたちへの支援企画、みやぎの子どもたち「生きる力（思い出づくり）」体験学習小学生のコースは、8 月 4～6 日にかけて東京ディズニーランドを楽しみ、羽田空港にある ANA（全日本空輸）機体メンテナンスセンター（整備場）を見学しました。

6 日の機体整備場見学には宮城県内の小学 4 年生から 6 年生までの児童約 140 人が 2 班に分かれて参加。整備場の学習室でパイロットやキャビン・アテンダントから子どもの頃の夢や仕事の内容とその厳しさ、苦労したことなどについて話を聞き、整備場に入って実際に巨大な航空機を間近に見て整備員から話を聞きました。

団長を務めた宮城県学校用品協会（みやぎ生協の子会社）常務取締役の小野英男さんは、この企画は「子どもたちに夢と希望を与えて、被災を乗り越えていこう。子どもたちに生きる力を持たせよう」という目的で行なわれたと言います。

「震災以来 1 年 4 カ月が過ぎました。私どもみやぎ生協学校部は昨年度、まずは被災した子どもたちに物質面での支援をしました。津波で流されてしまった学校用の教材を無償で支援しました。2012 年度になってさらに支援を継続するにはどんなことが必要かを考えたとき、未だ精神的ストレスを抱える子どもたちは少なくなく、心のケアはやはり重要なことで、これからは重点的に行なっていく必要があるだろうという結論になりました。今年度は子どもたちに夢を与えて『よし頑張ろう、さらに頑張って、みんなで乗り越えていこう』という気持ちになる『夢を持つことができる』企画をしよう」ということになったといいます。

これを教育現場からの要望として捉え、子どもたちがこれからの人生を生き抜いていく上で「生きる力」を育み、未来に夢や希望が持てるように，仲間と一緒に経験できる機会をつくることを目的にこの夏休みを利用した企画がつくられたのです。教育委員会を通じて県内に案内をしたところ応募者が 1 万 6 千人を越え、抽選で 652 人が参加することになり中学生は北海道へ、小学生は東京へ行くことになりました。その費用は全国の生協からの募金と宮城県の生協組合員からの支援によるもので参加費は無料です。

巨大な航空機を間近で見学

小学生はディズニーランドに行くことになりましたが、「遊んで楽しむだけでは生きる力、将来にどんな夢を持って育っていったらいいのか、ということには直結しないという心配がありました。そこで、専門的な職場で働いている方達がどんな苦労をしたり、小さい時にどんな夢を持っていたかということを学び、生きる力の糧になるようにと、航空機の整備場を見学し、よい夢を持てるようにしたい」と考え、ANA に見学をお願いし実現したと

小野さんは言います。というのも、一度に 140 人が入るというのは厳しい状況だったにも関わらず、この企画の主旨を理解していただき特別に許可をいただけたのです。そして、「出発する前に子どもたちに３つの目的を話しました。周りの人に感謝をする、仲間をつくり友達をつくる、集団行動を大切にする、です。

これは、抽選で参加した子どもたちが打ち解けて仲良くなることも大事であるという目的があります。さらに、帰ったら感想文を書いてもらい、この３つの目標が達成できたか検証する記録集（冊子）をつくることにしています。

整備場で子どもたちはまず、学習室で女性パイロットの一人から飛行機の操縦などについて話を聞きました。「どうして難しい操縦士になれたのですか」と聞かれたパイロットが「子どもの頃から操縦士になりたいと夢を持ち続けたからです」という答えに、質問した子どもも納得したようでした。キャビン・アテンダントへ「何歳になったら、やめさせられるんですか」とか「身長制限はあるんですか」などの質問に、CA たちは大爆笑。答えは一般と同じ定年制で、昔はあった身長制限も今はなく男性でもなれると聞くと、子どもたちは少し驚いたようでした。

教室で、女性と男性のパイロットから
さまざまな話を聞いた。

続いて旅客機が２機並ぶ整備工場を見学しました。そこでは整備士が子どもたちの質問に答えながら案内しました。とりわけ次世代の主力機となる新型ボーイング 787 の大きく奇麗な機体にみんな近寄って歓声をあげ写真撮影に熱中していました。

七郷小学校 6 年の櫻井翔輝くん（サクライ　ショウキ）は、操縦士の持つ鞄の中を見せてもらって、「重い鞄を持つパイロットは筋肉があって操縦もできるので、器用で力強いと思いました。整備士の話を聞いて、飛ぶためにいろんな工夫があってすごいと思いました。普段の夏休みは友達を家に呼んでゲームをしていますが、ディズニーランドは楽しく、整備場見学は勉強になったので来てよかった」と言います。

機体を間近にながめる子どもたち。
整備場の大きさに子どもたちは歓声を上げた。

広瀬小学校 6 年の佐藤沙樹さん（サトウ　サキ）は「整備場は今まで見たことがない所で、仕事をしている様子が見られてとてもよかった。パイロットや

CA さんの話は、いろんなことを知ることができて勉強になりました」といい思い出になったようです。
見学を終えた子どもたちは，これまで付きっきりで案内をしてくれた CA や整備士、職員約 30 人に手をふって見送られ整備場を後にしました。この体験学習は、8 月中に 4 班に分かれて行なわれ 572 人の児童が参加しました。